

2023年度神学校週間奨励

「キリストに捕らえられているから」

西南学院大学神学部 神学部長 才藤千津子



西南学院神学部、九州バプテスト神学校、東京バプテスト神学校で学ぶ神学生たちが、日本バプテスト連盟の伝道者養成に仕える者たちとして皆さまの熱い祈りの中にあることに、心から感謝いたします。皆さまの献金によって、神学部・神学校の働きは大きく支えられています。

現在、世界は日々大きく変化しています。諸教会も、高齢化、出席者の減少、財政基盤の弱体化、教会学校や信徒会あり方の変化など、深刻な問題に直面しており、コロナ以後はますますそれが加速しているようです。そのような中で、バプテスト連盟は、「信徒一人ひとりが伝道者として主体的に教会を担う研修と励まし」の重要性を再確認しながら、引き続き「牧師を含む教役者の養成と継続訓練」にも力を入れていこうとしています。そんな中で、私たちも、自らの変革へと勇気をもって踏み出してゆく必要に迫られています。例え

ば、これまで私たちがもってきた伝道者についての固定観念「専業、男性、既婚者」といった枠組みから自由になり、さまざまな背景をもった人たちが伝道者として働くことを喜びたいと思います。その際、ジェンダーやセクシュアリティに関する差別の痛みなど、社会的マイノリティの方たちの訴えに謙虚に耳を傾け互いに尊重し合うことは、当然の時代の要請です。また、兼業で牧師をすることや複数の教会で牧師として立つことなど、それぞれの賜物にしたがってさまざまな形で教会に仕えてゆく可能性にも大きく開かれたいと願うのです。これらは、「これからの伝道者養成基本理念」（2023年）の中で確認されています。

パウロは言います。「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。」（フィリ

「新しい伝道者養成基本理念が承認されました」（2023年度神学校週間にあたって）

全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 豊永義典（川崎バプテスト教会）

昨年度は壮年会連合からも、連盟の「これからの伝道者養成検討委員会」にメンバーとして加わり、新しい「伝道者養成基本理念」の検討・立案に参画しました。そしてまとめられた理念案は、今年2月の連盟総会で承認されました。

教会の様々な働きをみんなで担う、働きの分担を固定化することなく、信徒の働きがもっと生かされる、このためにみんなで学びに取り組もう、等のことがらが盛り込まれています。この理念に沿った具体的な計画は、今年度半ばまでには連盟理事会から壮年会連合に提案される予定です。

2022年度も243教会・伝道所から約1,555万円の神学校献金を献げて頂きました。心から厚く御礼申し上げます。今年度も西南学院大学神学部への入学者がゼロとなり、奨学金を貸与する神学生が減少する傾向が続いていますが、私たち壮年は神学校献金（神学生奨学金献金）を粘り強く、目標額を目指して継続することが、各教会・伝道所からの献身者を生み出す大きな力になっていることを信じています。

新しい理念では「伝道者の養成・支援」は、神学部・神学校での学びを支えることだけに留まらず、献身者を生み出し、学び、赴任、牧師としての継続的な研修という流れのなかで支えていこうと謳われています。連盟理事会との二者協議を継続するなかで、壮年会としての考え方もしっかりと伝えながら、具体的な計画につなげます。

3年前に新型コロナの感染が拡大してから、教会員が教会に集う機会を大幅に制限せざるを得ない中で神学校献金の額は減少したものの、1600万円前後の金額を維持出来ています。コロナ感染の沈静化がみえてきたなかで、対面の活動とWebの活用によって、日常活動を工夫しながら活発にし、早期に2000万円台に回復させるとともに、目標金額の2500万円を目指しましょう。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移	
年度	献金額
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円
2022年度	1,555万円